

あいちパラスポ PARK に参加して

尾崎 雄飛

神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーション工学科

1. はじめに

パラスポーツの魅力を伝えるとともに、障害への理解促進を目的として、2022年度から開催されている『あいちパラスポ PARK』が今年も開催された。日本障害者スキー連盟では情報ブースに出展したため、今回はじめて、スタッフとして参加した。その内容を以下に報告する。

2. 概要

日時：2024年2月24日（土）10時～16時

会場：ドルフィンズアリーナ第一競技場

内容：

(1) パラスポーツ体験（6競技）

ボッチャ、車いすバドミントン、車いすバスケットボール、卓球バレー、バウンドテニス、タグラグビー

(2) ブース出展

アジア・アジアパラ競技大会のPR、eスポーツ体験、モビリティの展示・体験、バーチャルチェアスキー・パラノルディックスキートレーナー体験等

(3) ステージイベント パラアスリートトークショー等

3. 出展内容

日本障害者スキー連盟では、任天堂 Wii を用いたバーチャルチェアスキーと任天堂 switch を用いたパラノルディックスキートレーナーを出展したのでそれぞれ紹介する。

(1) バーチャルチェアスキー

あらかじめ決められたコースを、チェアスキーを操作して、画面に出てくる旗と旗の間をくぐり抜けながらゴールを目指す。チェアスキーの下に、Wii ボードを設置し、体を傾け操作をする。リアルな体験をしてもらうための工夫として、画面の下にサーキュレーターを設置し、風を感じてもらうことで臨場感を出した。

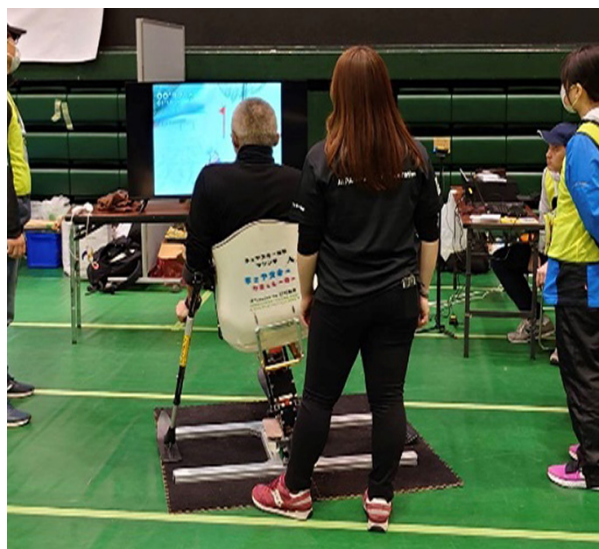


図1 バーチャルチェアスキー体験の様子

(2) パラノルディックスキートレーナー体験

あらかじめ設定しておいたコースを3周し、最速タイムを目指す。このトレーナーは、switch のマリオカートライブホームサーキットを使用しており、コントローラーのAボタンと、チェアの下に設置された発電機を連動させて操作をする。パラノルディック用のチェアに乗り、発電機と連動したトレッドミル上でノルディックポールを漕ぐと発電され、カートが動き出す。カートは、あらかじめ設定したコースを自動的に走るため、トレッドミルを漕ぐだけで体験できる。また、

神奈川リハビリテーション病院

リハビリテーション工学科

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516

カートに内蔵されたカメラによって走っているコースを画面上に映し出すことができるため、漕ぐ人も見る人も楽しめる仕様となっている。

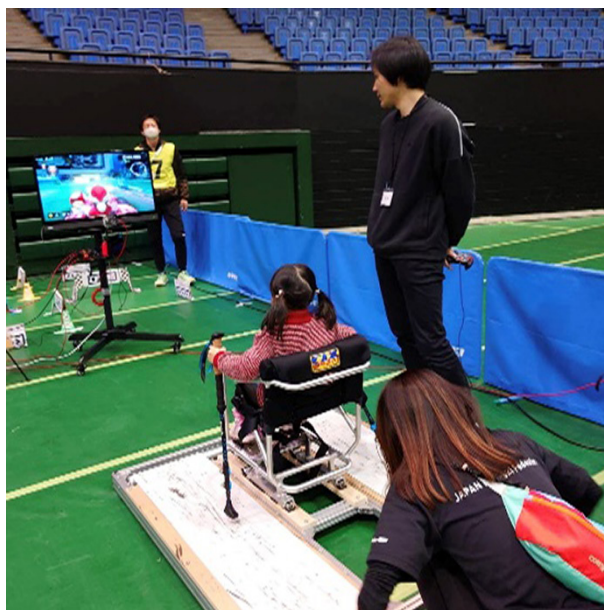


図2 パラノルディクトレーナー体験の様子

4. 会場の様子

障害のあるなしに関わらず、さまざまな世代がパラスポーツ体験やパラアスリートのトークショーなどを同時に楽しめる体験・交流型のイベントで、来場者にとってとても満足度の高い内容となっていた。また、特別ゲストとして、元プロバドミントン選手の小椋久美子さんや、アイドルグループ『仮面女子』のメンバー猪狩ともかさんなど、豪華キャストが多く参加されており、とても充実した内容となっていた。また、会場には、手話スタッフが常駐していることや、バリアフリーなつくりになっているなど、さまざまな障害に対応できる配慮がされていた。

当ブースでは、合計184名の方に体験していただいた。ゲーム機を用いたのシミュレーターだったため、割合は子供が多めではあったが、体験機器に興味を示した大人の方にも多く体験していただいた。

若い世代に認知されることで、早い段階でパラスポーツに取り組むことができ、競技人生が長くなるため、子供でも手軽に体験できるシミュレーターで良かったと感じている。体験していただいた方から一番多かった感想は、腕だけでの操作なため、数分の操作でもかなり体力を使ったとのこと。ほかにも、普段の生活では体験することができないため、このようなイベントでさまざまな競技の存在を知ることができたなど、嬉しい感想をいくつもいただいた。

5. おわりに

日頃から障害者スキーのイベントには参加しているが、ここまで規模の大きいパラスポーツのイベントは初参加だったので、とても良い経験になった。

私は、義肢装具士で、仕事柄パラスポーツとの関わりがあるため、いろいろな情報が入ってくるが、まだまだ認知度が低いと感じている。ほかの分野に比べ、活動している人材が少ないということと、広告に力をいれる余裕があまりないことが原因だと考えられる。

はじめて競技を知ったという人が多かったため、競技の存在を知らず、障害を抱えてしまってからスポーツとの関わりが途絶えてしまっている人は少なくはないはずだ。そのような人たちに、障害を抱えてしまったからといって、選択肢を狭めてしまわないように、このような活動は今後も広げていくべきだと改めて感じた。また、障害者だけを対象とするのではなく、健常者にも体験してもらうことで、知り合いへの紹介や、今後こういった分野に関わりたいという人たちを増やせる効果も期待できるため、とてもよいイベントだと感じている。

一人でも多くの人にパラスポーツを知ってもらえるように、これからもこのようなイベントに積極的に参加していきたいと思う。